



## 新社長 Interview

前田道路の社長に今泉保彦氏が就任してから5カ月が経過した。「まずは従業員の信頼を得なければならない」と思いを述べ、従業員との対話を重視する姿勢を示す。「前田道路ブランドの確立」を掲げ、従業員が誇れる会社を目指すとともに、親会社の前田建設と連携してPPP/PFIやコンセッション（運営権付与）を始めとした新規事業開発にも取り組む。課題や今後の方針などを聞いた。

——就任から現在までを振り返って

「従業員と会社のことをしっかり理解する必要があると考え、全国の支店を訪問して支店幹部や営業所長、工場長らと経営課題について議論し、認識を共有する機会を設けた。現場もこれまでに30カ所ほど訪問しており、労働組合ともこれから会社に向かう

方針や将来について対話を重ねてきた」

——経営方針は

「まずは従来の路線を踏襲

## 誇れる会社へブランド確立

し、課題をじっくり見極めた。現在、2022年3月期から始まる3カ年の中期経営計画を策定している。新中期経営計画では、コンプライアンス（法令順守）を始めとした体質改善や生産性改革、新しい収益基盤の確立が柱となっている。特に、コンプライアンス上の問題は再び起こすことのないよう徹底していく」

「また、10年後の2030年には創立100年を迎える。この区切りに向けてどのような進んでいくのか、しっかりと重点施策を立てて取り組む」

——市場環境の認識は

「維持・修繕は今後も需要が継続していくが、新設工事は伸びるような状況にはないだろう。製造部門についても出荷量は業界全体で少し

事だ」

——新たな収益基盤の確立に向けて

「請負型ビジネスは近い将来には減っていくことが目に見えており、現状維持では駄目だと就任時に話している。従来からの事業の延長線上で考えられるPPP/PFIやコンセッションなどでは、既に前田建設が先行して取り組みを進めているので、同社か

ずつ減少しているの、いかに数量を確保するかが課題となる」

「当社は全国に約120カ所の営業所と約100カ所の工場を構えており、拠点には常用の協力会社を抱えて何かあればすぐに出勤できる体制を整えている。この強みを今後も維持し、生かしていくために、協力会社の人材確保や承継問題を支援することが大

ら協力や知恵を得ながら挑戦していく。また、それ以外の事業でも柱になるものがあればトライし、社会や市場の変化に耐えられるようにしていきたい」

——前田建設との連携は

「既に共同での包括業務案件が動き出しており、技術の共同開発や施工のワーキングも立ち上がっている。人事交流については21年4月をめど

に始める予定だ。また、社内のICT基盤の整備では、取り組みが先行している前田建設の協力を受けながら進めている」

（いまいずみ・やすひこ）1981年3月成蹊大学政治学科卒業、同年4月前田建設入社。2017年4月専務執行役員建築事業本部長、同年6月取締役専務執行役員建築事業本部長、20年4月取締役、同年5月前田道路顧問を経て、6月から現職。秋田県出身。57年10月18日生まれ、63歳。

### 記者の目

趣味は散歩と読書。自身の社長就任が決まった時の心境を「前田道路の社長になるとは夢にも思っていなかったのだ、正直驚いた」と率直に話す。大切にしている言葉として松下幸之助の「企業は人なり」を挙げ、「社長に就いてまさにそのとおりだと実感している」と語る。前田建設時代から現場の声を聞くことは重視しており「ただ対話をしただけで終わりにせず、聞き取った課題に対して回答を返していくことで、信頼関係が生まれていく」との考えを示した。

